

新物流施設を検討

平野ロジスティクス

成田空港外に整備へ

到着貨物の一時保管スペースに

平野ロジスティクス(本社=神戸市)は、成田空港外に自社物流施設の整備を検討している。成田空港到着貨物や資材貨物、メーカー貨物の一時保管スペースとして活用する計画で、今年秋の稼働を予定している。主力のOLT(空港間保税輸送)とともに、航空貨物の集荷・配送、一般貨物の取り扱いなど、事業多角化を進める。

成田空港外で整備を検討している物流施設は敷地面積が3000平方超。倉庫部分は3000~1000

平方超規模で検討を進めている。同社は既に神戸本社、関西支店(大阪府泉佐野市)に同様の施設を構え、

貨物の一時保管サービスなどを提供している。成田でも需要を踏まえ、自社物流施設を整備することにした。

新施設は、成田空港に到着した貨物の配送までの一時保管スペースとして活用するほか、資材などの一般貨物、メーカー貨物の保管も手掛ける。現在、成田市三里塚にある関東支店は新施設にオフィスを移転する。同支店の益子研一支店長は「一時保管をはじめ、

運送に付随した物流施設として活用する」と説明する。

同社は成田や羽田、中部、関西、福岡空港を結ぶOLTを中心事業展開している。事業比率で見るとOLTが約8割、一般貨物の取り扱いが約2割。OLTが

主力である一方、一般貨物の取り扱いなど、事業多角化を進めている。

成田空港外の物流施設整備もその一環。益子支店長は「OLTで培った品質、ノウハウを一般貨物の取り扱いにも生かして、これまで以上にお客さまから信頼を得たい」としている。

関東支店は成田発着のOLTの拠点。同時に、羽田空港や江東区新木場の拠点と連動して、関東を発着する航空貨物や一般貨物の集荷・配送拠点としても機能している。関東支店が運用

している車両台数は、大型車を中心に43台。現在、成田と羽田間のOLTも手掛けており、両空港間の効率的な輸送サービスの開発も検討している。益子支店長は「成田、羽田の一体運用の橋渡しができれば」と語る。



高品質サービスを提供し顧客の信頼獲得に努めている

今年秋に稼働予定